

平成29年5月16日
東部農林振興センター 松江農業普及部

標 題	JAくにびき地区本部米品質向上に向け指導強化
-----	------------------------

(ダイジェスト)

JAくにびき地区本部は1等米比率が低い状況が続いており、品質向上が緊急の課題となっています。そこで「まつえ水田農業活性化プロジェクト」「米の高品質生産に向けた指導体制の強化」の一環として、品質向上の具体的対策を講じることを目的に、生産者代表、農協、普及で組織する「JAくにびき地区本部米品質向上対策委員会」が設立されました。

5月11日には第1回委員会が開催され、今年度の現地指導会の指導内容、運営方法、各地区へのモデル圃の設置、生育状況に応じた情報提供等が決定されました。

平成28年産のJAくにびき地区本部の1等米比率は44.3%と低い状況で、主な格下げ理由は「その他未熟」「胴割粒」となっています。この原因としては、昨年は平年より気温が高く生育が早まったが、中干し時期の遅れによる生育過剰、登熟期の早期落水、刈り遅れ等が考えられることから、第1回の委員会では、現地指導会の開催時期を例年より早め6月1日からとし、生産者の集まりやすい土、日を中心に管内20カ所で「適期中干し」を中心に指導することにしました。

また、くにびき稲作協議会の協力により、地区ごとに8カ所のモデルほを設置し、生育状況と栽培管理を掲示し地域の目安としてもらうことになりました。

さらに、近年気象変動が大きく、稲の生育状況や病虫害防除情報を迅速に伝達するため、「稲作メール配信サービス」、「稲作情報」の配布回数を増やす等拡充します。

品質向上対策委員会は、今後3回開催される計画で、「適期刈り取りの徹底」、「コシヒカリからの品種誘導」等を検討することとなっています。

農業普及部としては、栽培資料等の作成支援や、技術普及部と連携して実証ほ等の生育情報、病虫害の発生情報、気象情報等を提供することとしています。